

## 平成 29 年度 文教民生常任委員会行政視察報告書

1 期 日 平成29年7月18日(火)～19日(水)

### 2 視察先

◇スポーツツーリズムについて

合宿地としてのブランド化戦略について

スポーツツーリズムを通じた地域の活性化について

・長野県上田市

◇在宅医療における、病診連携と公立病院の役割について

・石川県白山市

### 3 参加者 (7名)

委員長 田中 康久

副委員長 上田 謙市

委員 清水 敏夫 兼山 悌孝 野田 勝彦

議長 渡辺 友三

事務局 議会総務課係長 兼山 美由紀

### 4 研修結果 以下のとおりである。

#### 長野県上田市 菅平高原スポーツランド サニアパーク菅平

7月18日(13:30～16:05)

スポーツツーリズムについて

・合宿地としてのブランド化戦略について

・スポーツツーリズムを通じた地域の活性化について

対応者：上田市議会事務局 金井 浩一 議会事務局長

星野 陽一 議会担当係長

#### 【上田市の概要】

○人口 158,816人(7月末)

○面積 522.04km<sup>2</sup>

○議員数 30人

説明者：上田市真田地域自治センター 桜井 浩 産業観光課長兼農業委員会事務局

真田地域事務所長

田中 昌彦 産業観光課課長補佐

菅平高原スポーツランド

サニアパーク菅平 一之瀬 所長

## 説明事項

### ○菅平高原について

真田地域の最北端、日本百名山 四阿山 (2,354m) と花の百名山 根子岳 (2,207m) のふもと、標高1,200mから1,500mに位置する。準高地のトレーニングに適した場所。昭和のはじめからスポーツ観光地として発展し、今では年間110万人もの環境客が訪れる。

真夏の平均気温は19.6℃。ふもとに広がる雄大な草原はあらゆるスポーツが楽しめるスポーツランドがあり、ラグビーやサッカー、陸上競技等のスポーツ合宿のメッカとなっている。

特にラグビー競技では、ジャパンチームをはじめ、毎年850チームを超えるチームが全国から合宿に集まる。

観光客数は、平成3年のピークで147万8,000人、平成28年は約110万人で推移している。冬場と夏場の観光客数の比較は、平成3年のピーク時は、冬場約73万人、約夏場67万人でだいたい均衡がとれた人数となっていた。平成28年では、冬場21万人、夏場72万3,100人と夏場が多く合宿に参加する人数が増え、冬場と夏場が逆転するという現象が起きている。現在の菅平の特色は、冬場のスキーの観光客から、夏場のラグビー・サッカー・陸上競技へと変わってきている。

菅平高原の運動施設の推移は、グラウンドでは昭和の初めは2ヶタであったが、現在は109面ある。うち人工芝数は21面あり、29年度中にはさらに2面追加の人口芝生化の工事をしている。

また、テニスブームが去り平成元年には390面あったテニスコートは、平成29年には112面にまで減っている。スキー客も減り、リフトが27から19に減っている。

旅館数においては、現在101施設ある。菅平高原だけの収容力は約1万人。保養所についてはピーク時には30施設あったが、現在は11施設になっている。

合宿では、ラグビー・サッカー・アメフト・陸上競技があり、チームの総数では約1,500チーム利用している。その中でも陸上競技は、平成11年には年間44チームの利用が現在506チームにまで増えている。陸上競技は年々増えており、サニアパークが完成した平成11年から、陸上競技チームを受け入れている。他は、ラグビーは約800チーム、サッカーは約200チーム、アメフトは5チーム受け入れている。

### ○スポーツランド サニアパーク菅平の概要

- (1) 施設名 上田市 菅平高原スポーツランド
- (2) サニアパーク菅平【サニア】は「太陽に近い」“sun near”からの造語。全国公募により決定。
- (3) 事業年度 平成7年度～平成10年度
- (4) 供用開始 平成11年5月21日
- (5) 事業費 21億9,000万円のうち、  
地域総合整備事業債（ふるさとづくり事業）  
17億1,000万円
- (6) 施設面積 185,221㎡
- (7) 施設概要
  - ・運動施設
    - ① メイングラウンド : 156m×90m
    - ② サブグラウンドA～D : 4面
    - ③ 陸上競技場 : 400mトラック8コース
    - ④ ランニングコース : 1週 650m
    - ⑤ 100m斜走路



スポーツランド サニアパーク菅平管理センター

- ⑥ マレットゴルフコース 5面のグラウンド、陸上競技場のフィールドは全て天然芝
- ・附属施設
- ① 管理センター

## 8 その他

- ・観光施設として建設
- ・芝生は通年緑色を保つため、3種類の洋芝を播種

## ○スポーツツーリズムについて

### 「合宿地としてのブランド化戦略」について

合宿地としてのブランド化としては、昭和2年から始まったスキーが合宿のスタート点になっている。ラグビーは昭和6年のから法政大学夏の合宿で始まった。

特に高校生は全国から菅平の合宿で練習し、秋や冬の大会に出ている。高校生や大学生が菅平で練習・練習試合をし、自分たちのポジションを確認し合っている。このことから、ラグビー合宿が多くなり発展してきた。

サニアパークについては標高 1,300mを生かした陸上の練習も増え、ラグビー、サッカー、陸上競技と合宿の菅平高原が定着してきた。

### 「スポーツツーリズムを通じた地域の活性化」について

春と秋に観光客が減るため、合宿以外に代わるものがないかと考え、昨年、菅平スポーツフィジカルセラピー協議会が立ち上げた「スポーツと健康」というものがある。3つのメニューで健康づくりを応援しており、まず身体測定メニューを行い自分の体について知り、運動測定メニューをし、その結果から日常トレーニングメニューのアドバイスがもらえる。

協議会の活動としては、会社の保険組合等と提携を結び、関東や関西から春と秋の定期健康診査として身体測定メニューや運動測定メニューを菅平で受け、戻った後は各自でアドバイスがあった日常トレーニングメニューを行い、健康の維持に貢献するという事を行っている。



身体測定メニューを受ける様子



運動測定メニューの一例

上田市と協議会とで「健康づくりでポイントゲット」というのを行っている。上田市では「健(康)幸(福)都市を目指して健康幸せづくりプロジェクト」を掲げており、チャレンジポイントを使いながら、市民の皆さんにも利用してもらうのを始めた。各種検診等や健康づくりのイベントへの参加などでポイントを貯め、市内バスの利用券や施設利用券などに交換するというのを行っている。このようなことを行い、地域貢献・地域活性化を行っている。

## ●主な質疑応答（事前提出分含む）

Q 「スポーツツーリズム」において、観光協会との連携はどのようにしているのか。

A 菅平スポーツフィジカルセラピー協議会には観光協会も所属している。旅館組合もスポーツと健康として連携がとれている。

Q 体育協会は、「スポーツツーリズム」に関わっているのか。

A 特に関わっていない。

Q 上田市民のスポーツに対する認識や意識は高いと思うが、具体的にわかるものはあるか。

A チャレンジポイント制度で市民とスポーツで関わっている。

Q チャレンジポイントはリニューアルという事であるが、以前からあったのか。

A 3年前から始まった。リニューアルというのは、使用できる範囲が広がったというのである。

Q 実際に申し込まれた数は？

A 資料がないのでわからないが、良い感触はある。検診の受診率が低いので、高くなれば良いと思う。

Q 資料の中での、訪れるチーム総数の中でのその他の内容は。

A 高校・大学・社会人以上の、少年野球とかのクラブチームをカウントしている。

Q 増えてきている陸上について、1,300mという利点があるからか。

A 準高地というのが菅平の利点特色。1,600mには野口みずきクロスカントリーコースがあり、そこで練習をつまれている人もいる。

Q サニアパークの管理費はどのくらいか。

A 今年度は、1,400万円ほど。

Q 人工芝の管理も含めてその金額でできるのか。

A そうです。施設だけでなく、グラウンド5面・陸上競技場も入っている。但し、この施設は、市の直営で委託で行っている。委託料が1,400万円である。

Q 施設の管理費は。

A 1,500万円かかる。使用料で1,800万円の収入が入るが元は取れない。人件費等を入れて計算すると、管理費はもっと増える。

Q 観光協会がこの施設に負担金などを支払うことがあるか。

A 直接施設に負担金を支払う、という事はない。しかし観光協会に属している保護者は観光PRに対しての負担金を支払っている。

Q 市民と他の合宿している団体と使用日時が重なった場合、市民を優先するという事はあるのか

A 時期的にこれから合宿が増えてくるので、市民を優先するという事はない。また、個人で陸上競技場を使用する場合は、1日300円からになるが、グラウンドは3時間5万円と高額であるため、市民からの問い合わせがなかなかない。

Q 海外からの客に対して、合宿のリフォームはあるのか。

A 大部屋が多く、ベッドも少ない。近隣のホテル利用も考えている。

Q どのぐらいの高さで、高地トレーニングの効果があるのか。

A 1,700mを超えると選手としてはきついと思う。高すぎると体を壊す。菅平は体を慣らさなくても



会議室での質疑応答

できる場所である。

Q 年間 110 万人は合宿に来る人だけの人数か。

A この数は菅平の来客数で、合宿だけでなく、観光客数も含まれている。上田市では年間約 630 万人になる。

Q 菅平に来る人はどの方面から来る人が多いのか。

A 割合としては関東方面が多い。

Q 菅平は真田町時代に民間主導で始めてきたという事だが、町としてやっていたことは。

A 真田町は農業と観光のみで観光のメーンは菅平であった。これから生きていくためには、観光を生かしていかなければと考え、菅平に施設を作るということで町として係わった。

## 白山石川医療企業団 公立つるぎ病院

7月19日（12：50～15：00）

在宅医療における、病院連携と公立病院の役割について

説明者：公立つるぎ病院 杉本 医院長

西村 一洋 管理部総務課長、西尾地域支援課課長

### 【白山石川企業団の概要】

- 構成団体 白山市、野々市市、能美郡川北町
- 執行機関 企業長 1名、副企業長 2名
- 議会組織 議員数 10名（白山市6名、野々市市3名、川北町1名 選出されている）  
定例会 2回（3月、10月）、臨時会
- 執行機関の委員 監査委員 2名
- 平成 29 年度の当初予算額 公立つるぎ病院 34 億 3,618 万 6,000 円  
（収益的収支、資本的収支）
- 公立つるぎ病院の概要  
病床数 152 床（一般 99 床、療養 53 床）  
病棟 一般病棟、地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟、医療療養病棟

### 説明事項

○在宅医療における、病院連携と公立病院の役割について

平成 17 年八つの市町村の合併により白山市が誕生。面積 754.93k㎡。白山ろく地区にある吉野谷診療所・中宮診療所・白峰診療所は、平成 20 年に企業団となった時に、共立つるぎ病院と一体になり会計も人員配置もつるぎ病院から行っている。巡回診療をしており、定期的に診療を行っている。

地域包括ケアシステムが必要となる背景として、少子高齢化、要介護（支援）認定者の増加、単独・高齢者夫婦世帯の増加、認知症高齢者の増加、介護の担い手不足、これらが必要となる背景となる。

それが謙虚にあらわれるのが、山ろくと思われ、平成 8 年から高齢者サービス調整会議を行い、平成 24 年度には県庁にて在宅医療連携拠点事業の



会議室での説明の様子

一環として、白山ろく・鶴来在宅医療連携協議会を立ち上げた。この中で、白山ろくサービス連携会議と鶴来地区サービス連携会議を行っている。

在宅医療・介護連携推進委事業として8項目決まっている。8項目を実施することにより、地域包括ケアシステムが構築していく。白山市在宅医療介護連携協議会を平成25年8月に設立し、白山市医師会、白山石川医療企業団、保健福祉センターや市などで構成され協議会を行っている。

白山市の中で松任病院と鶴来病院の2カ所で行っていた高齢者視線センターを、平成29年4月より7地区に区切ってできた。

地域住民への普及啓発として、「ふるさと白山体操」「足腰びんぴん体操」を行い、身近な地域での介護予防・交流の場として開いたり、医院長が講師をする「地域包括ケアに関する講演会」を行ったり、普及啓発をしている。また、毎月第3土曜日にオレンジカフェつるぎ（認知症カフェ）を行っている。

石川県内の全ての医療機関はIDLinkを導入しており、ICTを用いた在宅医療・介護の連携としてモデル事業を行っている。訪問看護ステーションへのタブレット端末の配備、平成28年度に居宅介護事業所へのタブレット端末の配備を行っている。いしかわ診療情報共有ネットワークが平成26年4月に稼働し、情報提供病院32施設、情報閲覧医療機関456施設となり、IDLinkを活用し、急性期病院と回復期病院の連携を取り、そしてかかりつけ医との連携もとる。訪問看護師やケアマネジャーなどの他職種の情報を把握することで、介護から医療まで情報を共有することを目指している。共有ネットワーク利用状況で、公立つるぎ病院へのアクセス件数は、平成28年度5,942件となっている。平成29年度4月から6月までではすでに7,266件となっており、昨年度と上回っている。

## ●主な質疑応答

Q 白山市人口の11万3,000人のうち、公立つるぎ病院はどのくらいカバーしているか。

A 公立つるぎ病院は3万5,000人ほどをカバーしている。

Q また、医師の確保のしかたは。

A 医師の数は減り続けている。また、石川県には家庭医をつくる環境は全くない。しかし、地域枠の医師が働き出している。大学へ行くときには、その話をしている。

Q 長期間医師がいていただくよう、助成金等出して育てているのか。

A 市からの助成金は無い。しかし、近くに医学部の大学が2校あるので、大学卒業後は地元に残る人が多いと思う。

Q 訪問診療で在宅の家に訪問するが、どのぐらいの頻度か。

A 毎日訪問診療するわけではなく、自分たちができる範囲で行っている。またIDLink使って情報共有を行って情報を共有して看護師が訪問し、報告は医師も確認している。

Q 地域包括ケア病棟開始による、苦労や看護師の負担は。

A 地域包括ケア病棟ができる前は99床、3階病棟が外科として45床、5階病棟が内科54床でわかれていた。地域包括ケア病棟が始まると、3階病棟が外科+内科となった。看護師の事務が煩雑になるとか、入退院が激しくなった。5階の地域包括ケア病棟にも、一般の入院患者が入っている。安定した病棟ではなくなった。看護師の配置は多いので対応できる。

Q 民間の開業医とのかかわりは。

A このつるぎ地区は、民間の病院は1つしかないなので、病院同士の競合はないが、顔が見えるような関係は作っている。また、会議などに参加していただいて、協力していただいている。

Q 在宅医療にスムーズに移行できない場合の最大の原因とそれに対する対策方法は。

A 60日間という縛りがある中で、在宅医療に変えていただくというのは難しく、療養型か近隣の老健への紹介をして対応している。なかなか見つからない場合は、60日を超えている人もいます。松任病院との協力や近隣の施設とのコンタクト、連携をしていくのが重要および課題である。



院内視察の様子

## 5 所 感

### ・長野県上田市 菅平高原スポーツランド サニアパーク菅平

高校生・大学生を中心に、菅平高原で練習し、秋冬の大会に出場するというパターンが出来上がっており、全国から学生が合宿に訪れている。

ホテルが自前でグラウンドを持っていることを含め、設備に関しては本市のかなり先を走っている。

関東方面の誘致については厳しいが、関西方面ではアクセスを活かして、本市もパターンを作れば、合宿地としての可能性がある。そのためには、施設整備はもとより、如何に強豪チームとコネクションを持つという人的なつながりも重要であると感じた。誘致担当職員が機動的に活動できる環境を整備すべきである。

また、充実した施設を活かし、市民の健康づくりに繋げる活動を行っており、本市においても健康、教育面から市有の施設を最大限に活用していく方向に舵を切る必要があると感じた。

### ・石川県白山市 白山石川医療企業団 公立つるぎ病院

地域包括ケア病床を導入する以前から、リハビリを中心とした生活復帰の支援が充実していた。

また、広域をカバーするため、開業医との連携が図られており、補完しあう関係を築いている。

本市においても、この2点は重要なポイントである。在宅志向が政策としてすすめられる中で、生活復帰を病院の目的とする事が大切であり、市民の不安を解消するためにも重要である。そのため理学療法士、作業療法士も含め、医療従事者の確保が必要となるが、職員採用の年齢要件の見直しが必要であると感じた。

また、本市においても開業医の高齢化が進んでおり、地域包括ケアを進めるにも、公立病院と民間病院の一層の連携が重要となる。

6 視察経費

視察費 290,830円

一人平均 48,472円 (委員5名・議長)

以上、視察研修の主な結果について報告します。

平成29年10月2日

郡上市議会議長 渡辺友三様

郡上市議会文教民生常任委員会  
委員長 田中康久